

平成 2 9 年度

岡山市教育委員会の事務に関する

点検・評価報告書



平成 3 0 年 8 月  
岡山市教育委員会

※ 岡山市教育委員会キャラクター



岡山市教育委員会広報専門官

「こらぼん♪」

－ 目 次 －

1	岡山市が目指す教育	・・・	1
2	岡山市教育委員会の事務に関する点検・評価について		
	(1) 趣旨	・・・	2
	(2) 点検・評価の対象	・・・	2
3	教育委員会の活動状況について		
	(1) 教育委員会会議の開催状況	・・・	3
	(2) 教育委員会会議以外の教育委員の活動状況	・・・	5
4	施策の取組状況		
	(1) 教育振興基本計画の概要	・・・	7
	(2) 施策・事業体系図	・・・	7
	(3) クローズアップ	・・・	9
	(4) 各政策の評価		
	政策1 主体的な学びの推進による確かな学力の育成	・・・	11
	政策2 人や自然、文化との関わりを通じた豊かな心の育成	・・・	13
	政策3 健康教育の充実による健やかな体の育成	・・・	15
	政策4 一人一人の育ちを支える指導・支援の充実	・・・	17
	政策5 学校園の教育環境の充実	・・・	19
	政策6 家庭、地域社会の教育環境の充実	・・・	21
5	外部評価委員の意見		
	(1) 評価書	・・・	24
	(2) 外部評価委員意見交換会の概要	・・・	27
6	点検・評価を踏まえた今後の方向性	・・・	28

## 1 岡山市が目指す教育

岡山市では、未来の希望である子どもたちが次代を生き抜いていくことができるよう市民協働による「自立する子ども」の育成を目指しています。「自立する子ども」とは、「自立に向かって成長する子ども」のことであり、豊かな人間性を身に付け、自分を高めるとともに、共に生きることができるよう自分自身を確立していく子どものことです。

「自立に向かって成長する子ども」の育成には、私たち大人が子どもの教育に一体となって取り組む必要があります。そこで、岡山市では「中学校区を単位とした学校園一貫教育 ～岡山型一貫教育～」と「岡山市地域協働学校」を中心に、つながりを大切にした取組を進めます。「中学校区を単位とした学校園一貫教育 ～岡山型一貫教育～」では、中学校区ごとに、目指す子ども像を共有し指導方針を就学前から中学校（市立高等学校）まで一貫させる学校園同士の縦のつながりをつくります。また、「岡山市地域協働学校」では、保護者や地域住民などが一定の権限をもって学校運営に参画することで、市民が協働する横のつながりをつくります。これらを2つの柱として、縦のつながりと横のつながりが織りなす教育により、子どもたちが自立に向かう力を育てていきます。



また、全ての取組において、一人一人の人権が尊重され、生命と尊厳が守られる家庭、学校園、地域社会の実現を目指します。さらに、本市ではESDを推進しており、全ての教育活動にESDの視点を生かしていくことで、子どもたちが将来の持続可能な社会の担い手として成長していくことを目指します。

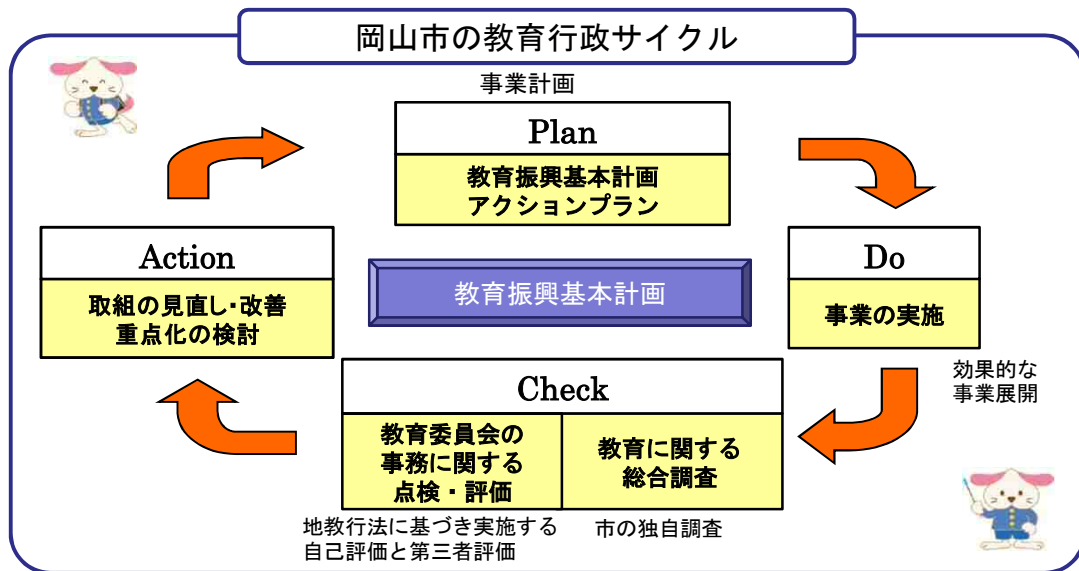
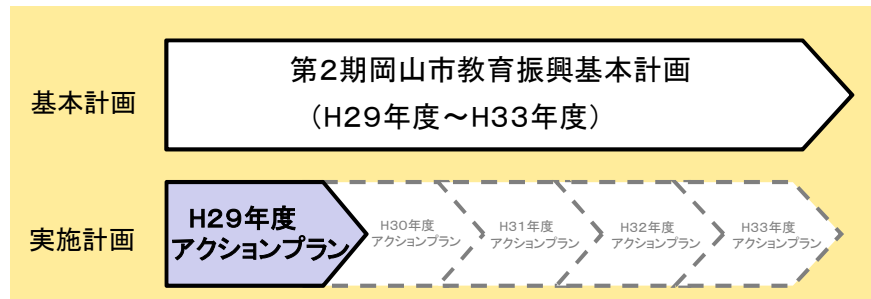
## 2 岡山市教育委員会の事務に関する点検・評価について

### (1) 趣旨

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条に基づき、岡山市教育委員会では、会議の開催状況等及び主要な事務事業等の管理・執行状況について点検・評価を行い、外部評価委員の意見を取り入れながら、教育行政の課題や取組の方向性を明らかにします。また、結果に関する報告書を議会に提出するとともに、公表することにより市民への説明責任を果たし、市民に信頼される教育行政の推進を図ります。

### (2) 点検・評価の対象

本報告書では、教育委員会の活動状況及び「第2期岡山市教育振興基本計画平成29年度アクションプラン」に掲載した事務事業の執行状況を点検・評価の対象としています。



#### ○地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

第二十六条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

### 3 教育委員会の活動状況について

#### (1) 教育委員会会議の開催状況

教育委員会会議は原則として毎月第4火曜日に定例会を開いています。

H29年度は14回（臨時会2回を含む）開催し、合計62件について審議し、報告を受けました。

また、定例会とは別に、喫緊の教育課題等に対する取組状況の聴取や、定例会に向けての質疑などを行う協議会を13回開催しました。



【教育委員会会議の様子】

#### ○ 審議案件（23件）

開催日	議 決 事 項
4月25日	岡山市教育振興基本計画平成29年度アクションプランの決定について 通学区域制度弾力化について
5月23日	平成29年度岡山市就学援助認定基準及び支給基準額の決定について 岡山市社会教育委員の委嘱について 岡山市教科用図書選定委員会委員の委嘱について
7月11日 (臨時)	岡山市立学校教職員の人事について
7月25日	平成30年度使用教科用図書の採択について 岡山市社会教育委員の委嘱について
8月22日	平成28年度岡山市教育委員会の事務に関する点検・評価報告書について
9月26日	岡山市社会教育委員の委嘱について
1月24日	岡山市文化財保護審議会への諮問について 平成30年度の全国学力・学習状況調査への対応について
2月20日	岡山市立公民館条例の一部を改正する条例の一部の施行期日を定める規則の制定について 岡山市立公民館規則の一部を改正する規則の制定について
3月12日 (臨時)	岡山市教育委員会事務局等職員の人事について 岡山市立学校教職員の人事について 岡山市立幼稚園教職員の人事について 岡山市立学校教職員の人事について
3月20日	岡山市いじめ等の問題行動及び不登校の防止に関する基本方針の改定について 岡山市教育相談室条例施行規則の制定について 岡山市適応指導教室条例施行規則の制定について 岡山市立図書館条例の一部を改正する条例の施行期日を定める規則の制定について 岡山市指定文化財の指定について

## ○ 報告案件(39件)

開催日	承認事項
5月23日	専決処理の報告2件(市議会の議決を経るべき議案の原案への同意について)
6月9日	専決処理の報告3件(市議会の議決を経るべき議案の原案への同意について)
	専決処理の報告(岡山市学校給食運営検討委員会委員の委嘱について)
	専決処理の報告(岡山市問題行動等対策委員委員の委嘱について)
7月25日	専決処理の報告2件(市議会の議決を経るべき議案の原案への同意について)
8月22日	専決処理の報告2件(市議会の議決を経るべき議案の原案への同意について)
9月26日	専決処理の報告3件(市議会の議決を経るべき議案の原案への同意について)
	専決処理の報告(岡山市教育委員会事務局職員の人事について)
11月21日	専決処理の報告6件(市議会の議決を経るべき議案の原案への同意について)
12月19日	専決処理の報告2件(市議会の議決を経るべき議案の原案への同意について)
1月24日	専決処理の報告3件(市議会の議決を経るべき議案の原案への同意について)
2月20日	専決処理の報告10件(市議会の議決を経るべき議案の原案への同意について)
3月20日	専決処理の報告3件(市議会の議決を経るべき議案の原案への同意について)

## ※ 協議会について

開催回数	主な協議事項
13回実施	平成29年度岡山市就学援助認定基準及び支給基準額(案)について
	公の施設の指定管理候補者の一部改定について
	岡山市社会教育委員の委嘱について
	平成28年度岡山市教育委員会の事務に関する点検・評価報告書(案)について
	負担付きの寄附の採納について
	岡山市社会教育委員の委嘱について
	岡山市文化財保護審議会への諮問について
	岡山市特別支援連携協議会設置条例の設定について
	岡山市教育相談室条例施行の規則の制定について
	岡山市適応指導教室条例施行の規則の制定について
	岡山市立公民館条例の一部を改正する条例の施行期日を定める規則の制定について
	平成30年度の全国学力・学習状況調査への対応について
	岡山市教育振興基本計画平成30年度アクションプランのクローズアップについて
私有敷地内における私有物の破損に係る和解及び損害賠償の額を定めることへの同意について	
岡山市立図書館条例の一部を改正する条例の施行期日を定める規則の制定について	

## (2) 教育委員会会議以外の教育委員の活動状況

## ○ 総合教育会議への出席（2回）

開催回（日）	協議事項
第1回（H29.11.21）	・大綱にかかる取組状況等について 
第2回（H30.1.25）	・家庭学習の充実に向けて ・教職員の勤務負担軽減について

## ○ 学校訪問・各種行事等への出席

8月16日	おかやまっこ未来フェスタ2017 （岡山イオン）【写真①】 	【写真①】
10月14日	こらぼミーティング（岡山商工 会議所女性会との意見交換会） 【写真②】 	【写真②】
10月19日	子どもが輝く学びづくりプロジェクト（竜之口幼稚園）	
1月7日	岡山市新成人の集い	
1月31日	学校給食週間中の学校訪問 （岡山市立平津小学校） 【写真③】 	【写真③】
3月13日	中学校卒業式	



○ その他

7月12日 平成28年度岡山市教育委員会の事務に関する点検・評価に係る外部評価委員会議



【写真④】

8月22日 こらぼミーティング「校園長会代表者との懇談会」【写真④】

12月20日 岡山県・岡山市教育委員会の意見交換会「学力と問題行動等の現状と取組について」

2月 5日 東京都王子小・王子桜中学校の視察「小中一体型校舎におけるさまざまな取組等について」【写真⑤】



【写真⑤】

2月15日 こらぼミーティング「初任者研修講座」（ウェルポートなださき）【写真⑥】



【写真⑥】

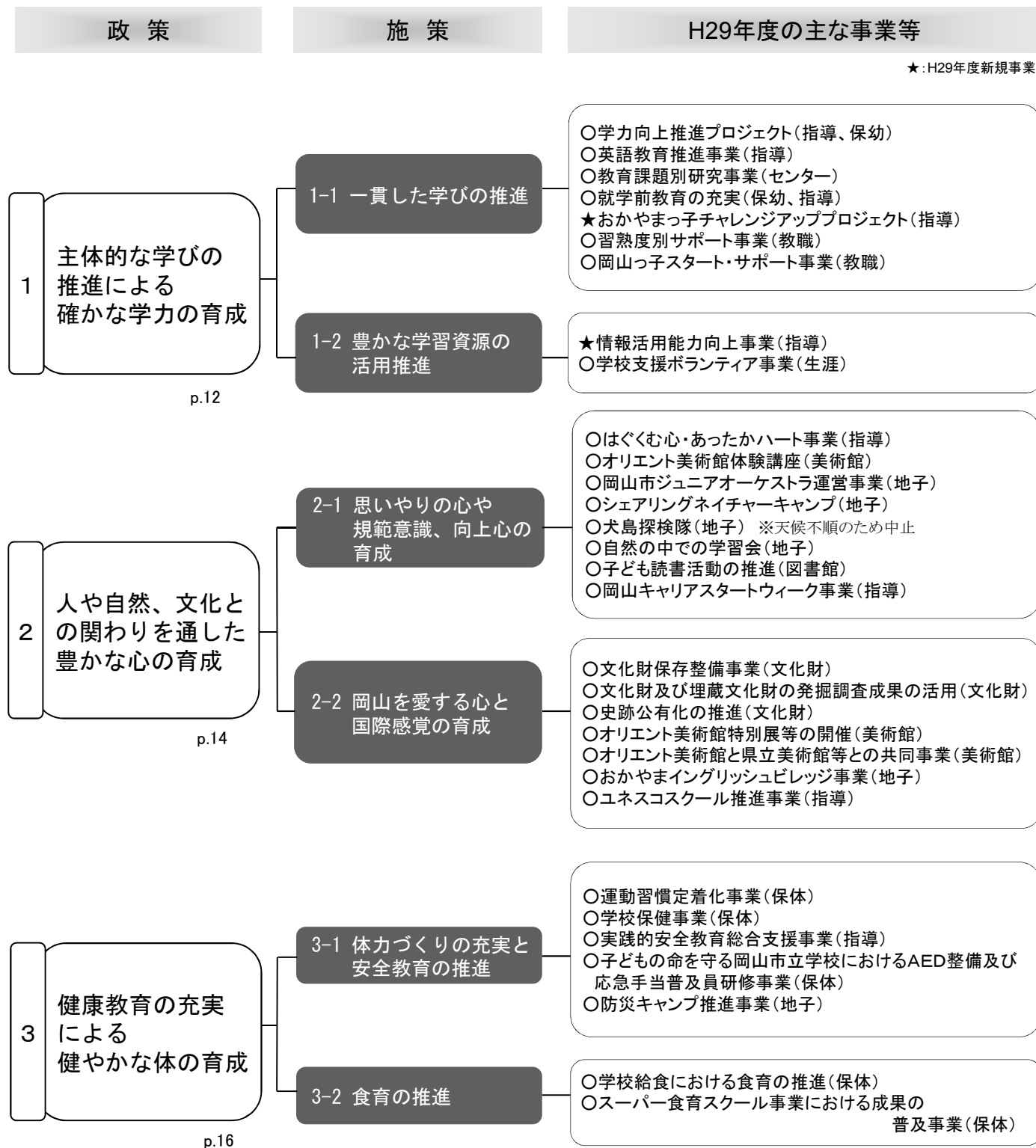
※ こらぼミーティングとは、教育委員による教育活動の参観や施設見学、市民の方や各機関の職員との意見交換といった広聴活動を総称して、H26年度に新たにネーミングしたものであり、子どもたちを取り巻く教育の現状や課題などについて把握し、教育委員会会議での議論に生かしていくために行うものです。

## 4 施策の取組状況

### (1) 教育振興基本計画の概要

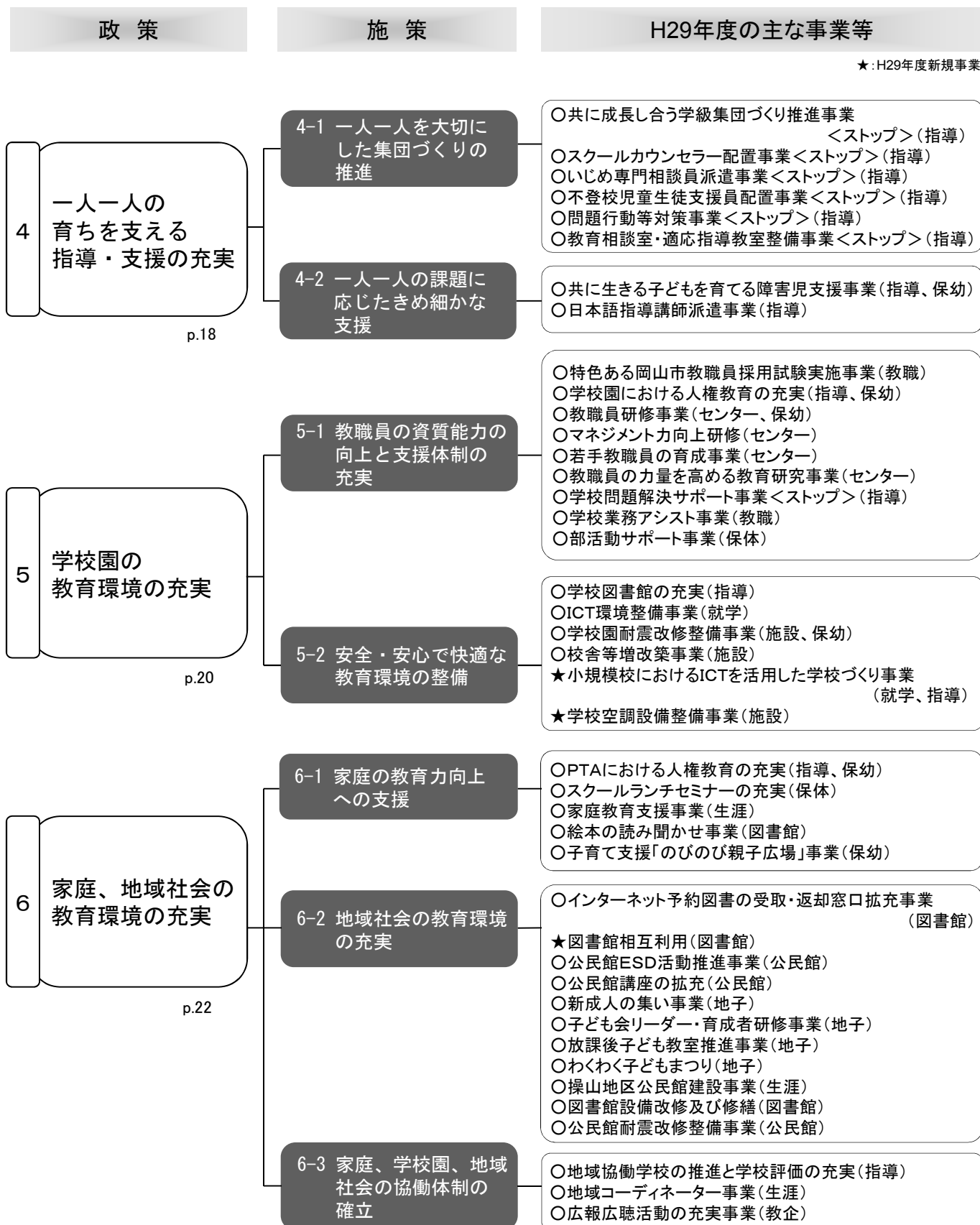
岡山市では、教育基本法第17条第2項の規定に基づき、岡山市の教育行政の5年間のビジョンを示した「第2期岡山市教育振興基本計画」をH29年3月に策定しました。この第2期岡山市教育振興基本計画は6つの政策と13の施策で構成し、それぞれの施策実現のために取り組む内容等を示しています。

### (2) 施策・事業体系図



★: H29年度新規事業

< >内は事業群名  
 ( )内は担当課  
 ストップ…ストップ・ザ学校問題  
 教企…教育企画総務課、施設…学校施設課、教職…教職員課、就学…就学課、指導…指導課  
 センター…教育研究研修センター、保体…保健体育課、生涯…生涯学習課、図書館…中央図書館  
 公民館…中央公民館、文化財…文化財課、美術館…オリエント美術館（以上、教育委員会事務局）  
 地子…地域子育て支援課、保幼…保育・幼児教育課（以上、岡山っ子育成局）  
 ※ 主な事業等の中には、学校その他の教育施設が日常的に行っている取組も入っています。



(3) クローズアップ

H29年度に、特に重点的に取り組んだ事業について紹介します。

確かな学力の育成

重点的に取り組んだ事業

「中学校区を単位とした学校園一貫教育 ～岡山型一貫教育～」の推進

学力向上推進プロジェクト(指導、幼保) 【政策1】p.12参照

**学力調査の効果的な活用**

- 岡山市学力アセス**  
岡山市の独自調査を実施し結果を分析しました。また、全市的な教科研究を行うことを通して人材育成を図りました。
- 全国学力・学習状況調査の活用**  
大学と連携をして調査結果を分析し、よりよい授業づくりを推進しました。
- 自主学习ソフトの導入【新規】**  
生徒一人一人の自主的な学習を支援するソフトを全中学校へ導入しました。
- 中学校区を単位とした授業研究支援事業「子どもが輝く学びづくりプロジェクト」【新規】**  
中学校区を単位とした保育・授業研究を行い、中学校区の課題解決に取り組みました。

**授業研究の推進**

- 授業これだけは！**  
授業における「めあて」「まとめ」「表現活動」の徹底を図るとともに質の向上を図りました。
- 指導教諭の活躍**  
学力向上の優れた実績を広め、授業を公開すると共に他教員の授業づくりを支援しました。
- 学力向上プロジェクト**  
学校現場の思いとアイデアを基に授業づくりの学習会を開催しました。

**市立高等学校**

**【新規】** 【政策1】p.12参照  
**おかやまっ子チャレンジアッププロジェクト(指導)**  
中学校区ごとに、児童生徒が主体的に、家庭学習の定着など学習状況の改善や、地域と連携した取組を考え、実践し、その取組の様子を広報しました。

**小学校**

【政策1】p.12参照  
**英語教育推進事業(指導)**  
小学校の英語教科化等次期学習指導要領改訂に向けて、教員の指導力・英語力向上のための取組や外国語指導助手の派遣などを行いました。

**就学前**

【政策1】p.12参照  
**就学前教育の充実(幼保)**  
保育園・幼稚園・認定こども園の合同研修会や、就学前と小学校の連携研修会を実施し、岡山式カリキュラムを踏まえた就学前教育の在り方などについて共通理解する機会をもちました。

成果と課題

これまで教育委員会と学校が取組の方向性を共有し、授業改善等を進めてきた成果として、全国学力・学習状況調査の結果は小学校・中学校ともに上昇傾向となっています。しかし、家庭学習については全国平均を下回るなど課題となっています。

<全国学力・学習状況調査>

年度		H28	H29	
偏差値	小学校	国語A	49	50
		国語B	50	51
		算数A	50	50
		算数B	50	50
	中学校	国語A	48	49
		国語B	48	49
		数学A	49	49
		数学B	48	49

	H29	
家で自分で計画を立てて勉強している。	中学校 49.1%	全国との差 <u>△2.4ポイント</u>
学校の授業以外に、普段(月～金曜日)、1日当たり1時間以上勉強をする。	中学校 60.9%	全国との差 <u>△8.7ポイント</u>

「岡山市地域協働学校」の推進

家庭

学校園

## 問題行動等の防止及び解決

### 重点的に取り組んだ事業

#### ストップ・ザ学校問題 【政策4, 5】p.18,20参照

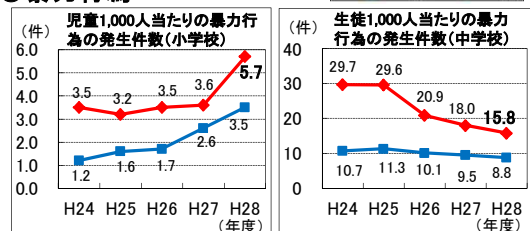
##### 一学びの場充実事業一(指導)

いじめ等の問題行動及び不登校を減少させ、学びの場を充実させるために、「未然防止」「早期発見・早期対応」「深刻化防止」といった観点からの取組を充実させました。また、効果的な解決につなげるために、本市の諸課題やその背景について検証を行いました。

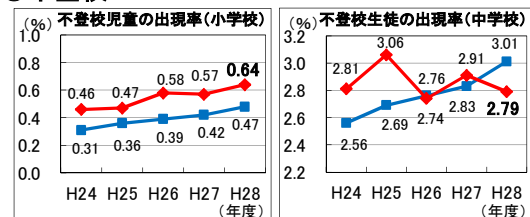
### 成果と課題

中学校では、暴力行為の件数、不登校の出現率がともに減少しており、不登校の出現率は全国平均を下回るなど、改善の傾向が見られます。一方、小学校では暴力行為の件数、不登校の出現率がともに増加しており、校内の支援体制づくりなどが課題となっています。

#### ○暴力行為



#### ○不登校



<児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査>

## 豊かな心の育成

### 重点的に取り組んだ事業

#### はぐくむ心・あったかハート事業(指導) 【政策2】p.14参照

子どもたち自身の生き方を見つめ直す機会、道徳の授業及び感動体験の機会を充実させました。

**成果** 「人が困っている時に進んで助けている」と答えた子どもの割合が増加しました。  
 小学校 86.4%(H28) ↗ 86.8%(H29)  
 中学校 81.4%(H28) ↗ 82.3%(H29)

## 教育施設・設備の整備

### 重点的に取り組んだ事業

#### 【政策5】p.20参照 【新規】学校空調設備整備事業(施設)

#### 【政策5】p.20参照 【新規】小規模校におけるICTを活用した学校づくり事業(就学、指導)

空調設備導入に向けて、外部有識者を交えた検討会議を実施しました。

小規模校の学びの質の維持向上のため、ICT機器を導入・活用しました。

#### 【政策5】p.20参照 学校園耐震改修整備事業(施設)

計画に基づき耐震改修整備を行い、小中学校の耐震化を完了しました。

#### 【政策5】p.20参照 校舎等増改築事業(施設)

児童数が急増した高島小学校の校舎を増築する工事を実施しました。

**成果** 「学校園は安全などに配慮して施設・設備を整えている」と答えた保護者の割合が大きく増加しました。  
 85.0%(H28) ↗ 90.8%(H29)

## チーム学校園の推進

### 重点的に取り組んだ事業

#### 【政策1】p.12参照 学校支援ボランティア事業(生涯)

学生をグループ化して活動支援を行うモデル事業を3校で実施しました。また、学生への謝金(交通費程度)の増額を行いました。

#### 【政策5】p.20参照 学校業務アシスト事業・部活動サポート事業(教職、保体)

小中学校への教職員を補助するアシスト職員の配置や、中学校・高等学校への部活動顧問教員を支援する外部指導者の派遣を行いました。

**成果** 様々な人材を活用し、子どもに関わる全ての大人が互いに連携して教育活動に当たったところ、「学校内外の人材の活用により子どもの総合的な学力が伸びてきている」と応えた保護者の割合が大きく増加しました。  
 65.0%(H28) ↗ 76.2%(H29)

## 豊かな学びの機会と場の提供

### 重点的に取り組んだ事業

#### 操山地区公民館建設事業(生涯) 【政策6】p.23参照

操山地区へ、老朽化している教育相談室・適応指導教室(あおぞら清輝)を複合化し、地区公民館を整備しました。

#### 【政策6】p.22参照 【新規】図書館相互利用(図書館)

岡山連携中枢都市圏域での「図書館の相互利用」に取り組みました。

#### 【政策2】p.14参照 文化財保存整備事業(文化財)

史跡を訪れた市民や観光客がその文化的価値を享受できる環境を整備しました。

**成果** 全ての中学校区に公民館を整備することができました。また、図書館では岡山市連携中枢都市圏での相互利用というソフト面での整備を進めています。さらに、岡山城跡と千足古墳の整備を進めました。

## (4) 各政策の評価

政策ごとに、H29年度の各施策の取組状況について評価します。政策の評価指標や各事業の指標の実績値の変化に注目し、成果と課題をまとめています。なお、全国的に調査が行われているものについては、平均値を参考として掲載しています。

### 政策1 主体的な学びの推進による確かな学力の育成

- 自ら考え実践する確かな学力の育成を目指し、子どもたちの主体的・協働的な学びに向けた授業改善やきめ細かな支援による、発達段階に応じた段階的な指導を行います。
- 教科指導をもとにはぐむ学力だけでなく、総合的な学力の育成に向けて、豊かな学習資源の積極的な活用を推進します。

### 評価指標

※ &lt; &gt;は全国平均値

指標名	基準値(H28)	実績値(H29)	目標値(H32)
全国学力・学習状況調査の偏差値 A問題:主として「知識」に関する問題 B問題:主として「活用」に関する問題	小6国語A 49 小6国語B 50 小6算数A 50 小6算数B 50 中3国語A 48 中3国語B 48 中3数学A 49 中3数学B 48	小6国語A 50 小6国語B 51 小6算数A 50 小6算数B 50 中3国語A 49 中3国語B 49 中3数学A 49 中3数学B 49	小6国語A 51 小6国語B 51 小6算数A 51 小6算数B 51 中3国語A 50 中3国語B 50 中3数学A 50 中3数学B 50 以上
全国学力・学習状況調査のB問題の無解答率の対全国比 (岡山市の無解答率/全国の無解答率)	小6国語 1.1 小6算数 1.1 中3国語 1.7 中3数学 1.3	小6国語 1.0 小6算数 1.0 中3国語 1.4 中3数学 1.1	小6国語 1.0 小6算数 1.0 中3国語 1.0 中3数学 1.0 以下
「家で学校の授業の復習をしている」と答えた子どもの割合	小6 55.1% 中3 40.5%	小6 56.3% <53.8%> 中3 38.4% <50.5%>	小6 60% 中3 51% 以上
「模擬授業や事例研究など、実践的な研修を行っている」という問いに肯定的な回答をした学校の割合	小 92.2% 中 63.2%	小 98.9% <95.6%> 中 100% <90.0%>	小 100% 中 100%
「校長が校内の授業を週2回以上見て回っている」と回答した学校の割合	小 89.9% 中 65.8%	小 97.8% <94.5%> 中 100% <83.5%>	小 100% 中 100%
「学校内外の人材の活用により子どもの総合的な学力が伸びてきている」と答えた保護者の割合	65.0%	76.2%	75% 以上

### 成果と課題

一貫した学びの推進では、確かな学力の育成を目指し、これまで教育委員会と学校が取組の方向性を共有し、模擬授業や事例研究など授業改善に重点的に取り組んできました。全国学力・学習状況調査の結果では、偏差値や無解答率の対全国比が小中学校ともに改善傾向となっています。しかし、家庭学習に関しては、中学校で課題が見られるため、家庭学習の取組が進んでいる先進校の優れた取組を市内の全ての学校に周知し、各校の取組に生かすことができるよう支援していく必要があります。また、生徒の英語力に関しては、H31年度に「英検3級以上相当の英語力を有すると思われる生徒の割合」が60%以上になることを目標としており、現時点では35.3%にとどまっていることから(p.12参照)、中学校への英語力向上に向けた更なる支援が必要となっています。

豊かな学習資源の活用推進では、ボランティアの登録者数や学生ボランティアの活動回数は減少していますが、評価指標の「学校内外の人材の活用により、子どもの総合的な学力が伸びてきている」と答えた保護者の割合は、10ポイント以上増加しています。教育支援員やサポーターなどの校内配置や、学校を支援する学生ボランティアの参加体制の強化など、子どもに関わる人々が互いに連携して教育活動に当たっている成果が出てきている状況がうかがえます。また、ICTの活用に関しては、「児童生徒のICT活用を指導できる教員の割合」が68.6%と減少しています(p.12参照)。ICTの活用はプログラミング教育へも効果的であることから、プログラミング教育の全面実施に向けて教員の指導力の向上が求められています。

## 施策1-1 一貫した学びの推進

### ◎主な事業

#### ○学力向上推進プロジェクト(指導、保幼)

岡山市学力アセスや子どもが輝く学びづくりプロジェクト、授業これだけは！の取組の実施など

- ◆授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れていると答えた学校の割合  
小98.8%(H28) ↘ 96.6%(H29)  
中94.7%(H28) ↗ 97.4%(H29)
- ◆自主学习ソフトのシステムを100日以上使用した中学校の割合 【新設】44.7%(H29)

#### ○英語教育推進事業(指導)

外国語指導助手(ALT)の配置や校内研修への講師派遣、英語教育推進指定校事業の実施など

- ◆生徒の英語力(中学校3年生)実施状況調査で英検3級以上相当の英語力を有すると思われる生徒の割合  
33.4%(H28) ↗ 35.3% <40.7%>(H29)

#### ○教育課題別研究事業(センター)

研究協力校と連携し、子どもが主体的・協働的に学ぶ授業づくりの研究の推進

- ◆教育課題別研究の成果物を利用した学校の割合  
90.2%(H28) ↗ 90.7%(H29)

#### ○就学前教育の充実(保幼、指導)

保育園・幼稚園・認定こども園が合同で研修する機会を提供

- ◆幼児の学びを豊かにするために、意図的・計画的に場や機会などの環境を整え、保育の改善を図っていると答えた教員の割合  
【新設】67.9%(H29)

## 施策1-2 豊かな学習資源の活用推進

### ◎主な事業

#### ○【新規】情報活用能力向上事業(指導)

指導方法の研究や研修会、プログラミング教育や情報教育のカリキュラム作成についての説明会の開催

- ◆児童生徒のICT活用を指導することができる教員の割合  
72.6%(H27) ↘ 68.6% <66.7%>(H28)
- ◆情報モラルを指導することができる教員の割合  
84.6%(H27) ↘ 82.6% <80.0%>(H28)

#### ○【新規】おかもまっ子チャレンジアッププロジェクト(指導)

中学校区ごとの学習状況の改善や、地域と連携した取組の実践の推進と広報

- ◆平日に1日当たり1時間以上勉強していると回答した生徒の割合  
58.6%(H28) ↗ 60.9%(H29)



#### ○習熟度別サポート事業(教職)

小学校2～6年生の算数や国語において小集団による習熟度別授業が行えるように習熟度別サポーターを配置

#### ○岡山っ子スタート・サポート事業(教職)

小学校1年生に対し、生活指導や学習指導に当たる教育支援員を配置

※ < >は全国平均値

※ 各事業の指標(◆)については、主要なもの(施策内容とのつながりがわかりやすいもの)を中心に掲載しています。そして、H28からH29の変化を、0.5ポイント以上の増加がある場合は「↗」で、0.5ポイント以上の減少がある場合は「↘」で、それ以外を「→」で表しています。

## 政策2 人や自然、文化との関わりを通じた豊かな心の育成

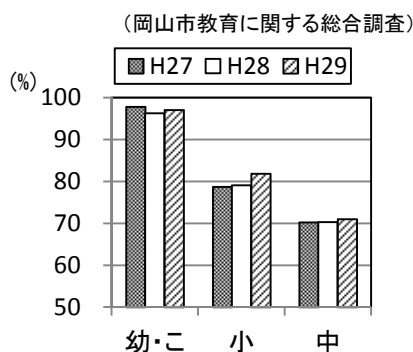
- 人権尊重の精神に根差した思いやりの心や規範意識、向上心を養うために、豊かで多様な体験活動の充実を図ります。
- 我がまちを大切に作る心や国際社会に生きる実感を育むために、地域の環境や地域に暮らす人、学習資源との関わりを積み重ねる取組の推進を図ります。

### 評価指標

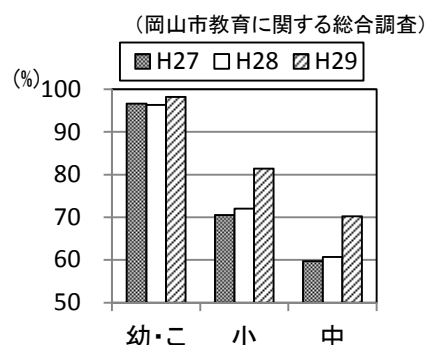
指標名	基準値(H28)	実績値(H29)	目標値(H32)
「人が困っている時に進んで助けている」と答えた子どもの割合	小 86.4% 中 81.4%	小 86.8% 中 82.3%	小 92% 中 90% 以上
「今住んでいる地域や岡山市の歴史や自然に関心がある」と答えた子どもの割合	小 59.3% 中 42.9%	小 62.7% 中 44.4%	小 63% 中 47% 以上
「外国の人に話しかけられたら、進んでそれに答える」と答えた子どもの割合	小 60.4% 中 56.1%	小 62.1% 中 58.5%	小 64% 中 60% 以上

### 参考データ

① 「道徳教育の充実を通して、子どもたちの思いやりの心が育ってきていると感じる」と答えた教職員の割合



② 「体験活動の充実が子どもの育ちにつながったり、子どもの総合的な学力が伸びてきたりしていると感じる」と答えた保護者の割合



### 成果と課題

思いやりの心や規範意識、向上心の育成では、小中学校において、道徳の教科化に向けて道徳教育の充実を図ってきており、参考データ①の「道徳教育の充実を通して、子どもたちの思いやりの心が育ってきていると感じる」と答えた教職員の割合は増加傾向となっています。さらに、評価指標の「人が困っている時に進んで助けている」と答えた子どもの割合も増加しています。しかし、「道徳授業プロデューサーの派遣により指導改善につながったと回答した実施校の割合」は減少していることから(p.14参照)、道徳授業プロデューサーを効果的に活用するための改善が求められています。さらに、道徳プロデューサーによる指導改善の内容を実施校以外の学校にも広く普及していくことが求められています。また、学校園や地域では様々な体験活動の場を提供しており、参考データ②の「体験活動の充実が子どもたちの育ちにつながったり、子どもの総合的な学力が伸びてきたりしていると感じる」と答えた保護者の割合が大きく増加しています。

岡山を愛する心と国際感覚の育成では、美術館の特別展等の入場者数は減少していますが、文化財や美術品などの学習資源との関わりを積み重ねる取組などにより、評価指標の「今住んでいる地域や岡山市の歴史や自然に関心がある」と答えた子どもの割合は増加してきています。また、ユネスコスクールやイングリッシュビレッジなどの取組及び学校での英語教育などにより、評価指標の「外国の人に話しかけられたら、進んでそれに答える」と答えた子どもの割合はいずれも増加しており、一定の成果がうかがえます。



## 施策2-1 思いやりの心や規範意識、 向上心の育成

### ◎主な事業

○はぐくむ心・あったかハート事業(指導)  
子どもたち自身の生き方や考え方を見つめ直す  
機会、道徳の授業及び感動体験の機会の充実

◆道徳授業プロデューサーの派遣により指導改善に  
つながったと回答した実施校の割合  
85.7%(H28) ↘ 80.0%(H29)

○オリエント美術館体験講座(美術館)  
夏休みに美術館の展示品を参考に作品を制作  
する体験教室を開催

◆ジュニアオリエント教室をはじめ、各種ワークショップ  
への小中学生の参加者数  
288人(H28) ↗ 389人(H29)

○岡山市ジュニアオーケストラ運営事業  
(地子)  
公立のジュニアオーケストラとして年2回の演奏  
会やミニコンサートなどを開催



※ 各事業の指標(◆)については、主要なもの(施策内容とのつながりがわかりやすいもの)を中心に掲載しています。そして、H28からH29の変化を、0.5ポイント以上の増加がある場合は「↑」で、0.5ポイント以上の減少がある場合は「↓」で、それ以外を「→」で表しています。

○シェアリングネイチャーキャンプ(地子)  
自然の中での3泊4日の宿泊活動などを実施

◆グループ活動に協力して取り組むことができたと回答した参加者の割合 【新設】100%(H29)

◆自然体験活動に主体的に取り組むことができたと回答した参加者の割合 【新設】98.0%(H29)

○自然の中での学習会(地子)  
小学生を対象に収穫体験や星空観察などの体験活動を実施

◆自然のすばらしさを体感できたと回答した参加者の割合 【新設】95.0%(H29)

○子ども読書活動の推進(図書館)  
図書館において読書のきっかけとなるような行事を開催

◆児童書の貸し出し冊数  
121.7万冊(H28) ↘ 120.6万冊(H29)

◆行事参加人数(延べ人数)  
10,782人(H28) ↘ 10,230人(H29)

○岡山キャリアスタートウィーク事業(指導)  
中学校で実施する職場体験活動への支援

## 施策2-2 岡山を愛する心と国際感覚の育成

### ◎主な事業

○文化財保存整備事業(文化財)  
岡山城跡と千足古墳の整備を実施

○文化財及び埋蔵文化財の発掘調査成果の活用(文化財)

現地説明会や定期講座、特別展などを開催

◆文化財の現地公開や文化財をテーマにした講演会、講座などへの参加人数  
6,740人(H28) ↗ 7,317人(H29)

○史跡公有化の推進(文化財)  
大廻小廻山城跡、彦崎貝塚の公有化を実施

○オリエント美術館特別展等の開催(美術館)  
特別展として2企画を開催

◆特別展の小中学生の入場者数  
1,364人(H28) ↘ 826人(H29)

○オリエント美術館と県立美術館等との共同事業(美術館)

県立美術館等との共同による情報発信、特別展の企画や学習プログラムの開発等

◆半券(割引)入館者数(2館)  
1,400人(H28) ↘ 1,324人(H29)

○おokayamaイングリッシュビレッジ事業(地子)  
小学校5・6年生を対象に外国人や学生スタッフと英語で交流する機会を提供

◆さらに異文化に興味をもった参加者の割合  
【新設】90.0%(H29)

○ユネスコスクール推進事業(指導)  
ユネスコスクールでのESD活動への支援やユネスコスクール間の交流の推進

## 政策3 健康教育の充実による健やかな体の育成

- 体力の向上を図るとともに、健康で安全な生活を送ろうとする態度を養うために、日常的な体力づくりの機会の充実や安全教育の充実を図ります。
- 健やかな体を主体的に育もうとする態度を養うために、より児童生徒や保護者の実情に合った食育を推進していきます。

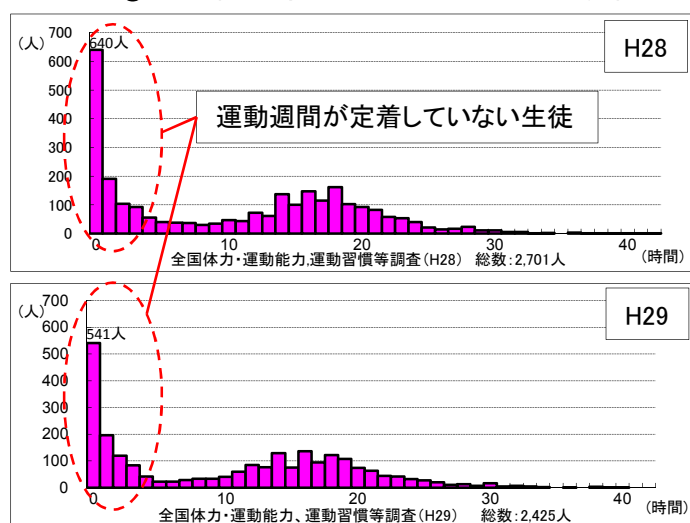
### 評価指標

※ &lt; &gt;は全国平均値

指標名	基準値(H28)	実績値(H29)	目標値(H32)
1週間の総運動時間が60分以上の子どもの割合	中2男子 92.3% 中2女子 76.3%	中2男子 93.4% <93.9%> 中2女子 77.7% <80.9%>	中2男子 93% 以上 中2女子 79% 以上
「朝食を毎日食べる」と答えた子どもの割合	82.4%	82.4%	94% 以上

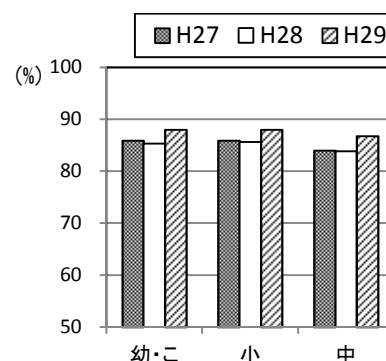
### 参考データ

① 岡山市の中学2年生女子の1週間の総運動時間



② 「子どもの食生活に気をつけている」と答えた保護者の割合

(岡山市教育に関する総合調査)



### 成果と課題

体力づくりの充実と安全教育の推進では、運動習慣の定着が少しずつ進んでおり、評価指標の「1時間の総運動量が60分以上の子どもの割合」は、中学校2年生の男女ともに増加しています。しかし、参考データ①のグラフからわかるように、中学校2年生女子の詳しい結果を見ると、運動をしている子どもとしていない子どもに分かれる二極化の傾向が依然としてあります。特に、運動をしない(0～60分)と回答した中学校2年生女子は541人で、その割合は22.3%となり、全国平均の19.1%と比べて高く、運動週間のない児童生徒への改善が求められています。そのためには、研究推進校での実践を、市内の全学校へ広めるための工夫が必要です。また、安全教育に関しては、「防災キャンプ推進事業への児童生徒参加者数」が減少しており(p.16参照)、児童生徒の防災や安全に対する意識の更なる向上が課題となっています。

食育の推進では、学校園では食育に関する意識が高まっており、「食に関する指導が学校全体で計画的に実施できたと答えた学校の割合」は増加しています(p.16参照)。家庭でも、参考データ②の「子どもの食生活に気をつけている」と答えた保護者の割合は増加しています。しかし、評価指標の「朝食を毎日食べる」と答えた子どもの割合は変化しておらず、引き続き家庭や地域社会への啓発を進めながら、政策6の家庭や地域社会に向けた取組と連携し、粘り強く取り組んでいく必要があります。

## 施策3-1 体力づくりの充実と安全教育の推進

### ◎主な事業

#### ○運動習慣定着化事業(保体)

研究推進校による研究の推進と、運動するきっかけづくりに関する実践的な取組の推進と研修の実施

◆体育の宿題を含め、運動習慣定着化の取組を実施している学校の割合 【新設】72.4%(H29)



#### ○学校保健事業(保体)

学校で実施する薬物乱用教室への支援など

◆薬物乱用防止教室の実施率 83.0%(H28) ↗ 88.3%(H29)



※ 各事業の指標(◆)については、主要なもの(施策内容とのつながりがわかりやすいもの)を中心に掲載しています。そして、H28からH29の変化を、0.5ポイント以上の増加がある場合は「↗」で、0.5ポイント以上の減少がある場合は「↘」で、それ以外を「→」で表しています。

#### ○実践的安全教育総合支援事業(指導)

学校への学校安全に関する講師の派遣など



#### ○子どもの命を守る岡山市立学校におけるAED整備及び応急手当普及員研修事業(保体)

AEDトレーナーの貸出しと応急手当普及員研修会の実施

◆市立学校における応急手当普及員が在籍する率 23.1%(H28) ↗ 52.3%(H29)

#### ○防災キャンプ推進事業(地子)

児童生徒が、学校教育外の環境において被災した場合など、必要な技術や知識を学習する機会を提供する

◆防災キャンプ推進事業の児童生徒参加者数 1,171人(H28) ↘ 985人(H29)

## 施策3-2 食育の推進

### ◎主な事業

#### ○学校給食における食育の推進(保体)

学校で実施している給食の時間や特別活動、関連する各教科等での食育の取組を支援

◆食に関する指導が学校全体で計画的に実施できたと答えた学校の割合 80.7%(H28) ↗ 95.3%(H29)



#### ○スーパー食育スクール事業における成果の普及事業(保体)

身体測定や実態把握などの客観的なデータを用いた食育を推進

◆実態把握(データ)や身体測定値等の客観的な数値をもとに、食に関する指導を行ったと答えた学校の割合 85.8%(H28) ↗ 87.4%(H29)



## 政策4 一人一人の育ちを支える指導・支援の充実

- 子どもたち一人一人の自己肯定感が高まるとともに、健全で建設的な人間関係をつくることができるよう、学び合い高め合う集団づくりや落ち着いた教育環境の充実を図ります。
- 支援や配慮を必要とする子どもが主体的に学び続けることができるように、一人一人の育ちを支えるきめ細かな支援を行います。

### 評価指標

※ &lt; &gt;は全国平均値

指標名	基準値(H28)	実績値(H29)	目標値(H32)
「学校に行くのが楽しい」と答えた子どもの割合	小 85.4% 中 83.4%	小 85.9% 中 84.1%	小 90% 中 88% 以上
「自分にはよいところがある」と答えた子どもの割合	小6 79.8% 中3 72.7%	小6 81.7% <77.9%> 中3 73.7% <70.7%>	小6 82% 以上 中3 73%
児童生徒1,000人当たりの暴力行為の発生件数	小 3.6件 中 18.0件 (H27)	小 5.7件 <3.5件> 中 15.8件 <8.8件> (H28)	小 2.6件 以下 中 9.5件 (H31)
いじめの解消率 (※H28の調査から基準が変更)	小 98.1% 中 97.4% (H27)	小 97.3% <91.2%> 中 95.0% <89.0%> (H28)	小 100% 中 100% (H31)
不登校の出現率	小 0.57% 中 2.91% (H27)	小 0.64% <0.47%> 中 2.79% <3.01%> (H28)	小 0.42% 中 2.83% 以下 (H31)
年3回以上、問題行動等の防止・解決等に関する研修会またはケース会議を開催している学校の割合	—	小 100% 中 100%	小 100% 中 100%

### 成果と課題

一人一人を大切にした集団づくりの推進では、子どもたちが愛されていると実感できる教育環境の実現を目指し、ストップ・ザ学校問題として様々な支援を行っています。その成果として、評価指標の「学校に行くのが楽しい」と答えた子どもや、「自分にはよいところがある」と答えた子どもの割合はともに増加しており、子どもたちの自己肯定感が高まっています。引き続き、学級適応感などを測る質問紙調査(hyper-QU、ASSESS)の効果的な活用が求められています。また、全ての学校において対応力の向上に取り組んでおり、問題行動等の防止及び解決を目指し、年3回以上の研修会またはケース会議を開催するなど、校内の支援体制づくりを行いました。その結果として、評価指標にあるように、中学校では、暴力行為の件数、不登校の出現率がともに減少しており、改善の傾向が見られるものの、小学校では、暴力行為の件数、不登校の出現率がともに増加しており、校内の支援体制づくりや教職員の対応力向上が課題となっています。また、いじめの解消率については、小中学校ともに減少しており、いじめ専門相談員の効果的な活用などの対応が求められています。

一人一人の課題に応じたきめ細かな支援では、学校では、個別の指導計画や教育支援計画を活用し、子どもたち一人一人に応じた指導・支援の充実を図っています。「学校に行くのが楽しい」と答えた特別支援学級に在籍する子どもの割合は、中学校では増加しているものの小学校で減少しており(p.18参照)、指導・支援の改善や更なる充実が求められています。

## 施策4-1 一人一人を大切に 集団づくりの推進

※ 各事業の指標(◆)については、主要なもの(施策内容とのつながりがわかりやすいもの)を中心に掲載しています。そして、H28からH29の変化を、0.5ポイント以上の増加がある場合は「↑」で、0.5ポイント以上の減少がある場合は「↓」で、それ以外を「→」で表しています。

### ◎主な事業

#### ○共に成長し合う学級集団づくり推進事業 (指導)

望ましい学級集団づくりへの活用を目的とした  
全小中学校における質問紙調査の実施

◆「質問紙調査の活用が集団づくりに有効であった」と回答した学校の割合  
99.2%(H28) ↓ 98.4%(H29)



#### ○いじめ専門相談員派遣事業(指導)

臨床心理士の資格を持ついじめ専門相談員2名の教育相談室への配置

#### ○不登校児童生徒支援員配置事業(指導)

登下校や別室登校の支援を行う不登校児童生徒支援員の学校への配置

#### ○問題行動等対策事業(指導)

岡山市問題行動等対策委員会におけるいじめ等の問題行動及び不登校の防止に係る対策などについての審議

#### ○教育相談室・適応指導教室整備事業 (指導)

教育相談室と適応指導教室あおぞら清輝を、  
操山公民館施設に併設・移転



#### ○スクールカウンセラー配置事業(指導)

児童生徒及びその保護者をカウンセリングする  
スクールカウンセラーの学校への配置など

### ＜ストップ・ザ学校問題＞

◆1年間で、月に3日以上欠席したことがある児童生徒の割合  
14.0%(H28) → 14.0%(H29)

## 施策4-2 一人一人の課題に応じたきめ細かな支援

### ◎主な事業

#### ○共に生きる子どもを育てる障害児支援事業(指導、保幼)

特別支援教育支援員や看護支援員等の学校への配置など

◆「学校に行くのが楽しい」と答えた特別支援学級に在籍する子どもの割合  
小81.6%(H28) ↓ 78.8%(H29)  
中69.5%(H28) ↑ 75.6%(H29)

#### ○日本語指導講師派遣事業(指導)

日本語指導が必要な児童生徒への日本語指導支援員の派遣

◆日本語指導を受けたことにより、日常生活に必要な日本語が身に付いた児童生徒の割合  
85.0%(H28) ↑ 95.8%(H29)

## 政策5 学校園の教育環境の充実

- 先輩と若手が共に学び合い互いに資質能力の向上が図れるよう、個々の教職員の立場や経験、状況に応じた研修等を充実させるとともに、教職員の業務改善に向けた支援体制の充実を図ります。
- 子どもも教職員も、学びに集中できる学校園を目指し、安全・安心に配慮した施設や質の高い教育環境を整備していきます。

### 評価指標

指標名	基準値(H28)	実績値(H29)	目標値(H32)
「学校の授業は分かりやすく楽しい」と答えた子どもの割合	小 84.1% 中 67.8%	小 85.0% 中 70.6%	小 87% 以上 中 72%
「子どもと向き合う時間が充足している」と答えた教職員の割合	50.2%	53.2%	60% 以上
部活動の週1日以上 の休養日を設定している中学校の割合	78.9%	100%	100%
教職員の定時退校日を設定している学校の割合	—	100%	100%
「学校園は安全などに配慮して施設・設備を整えている」と答えた保護者の割合	85.0%	90.8%	88% 以上

### 成果と課題

教職員の資質能力の向上と支援体制の充実では、資質能力を育む教職員研修や教育研究の成果として、評価指標の「学校の授業は分かりやすく楽しい」と答えた子どもの割合は小学校で0.9%の増加、中学校で2.8%の増加と、特に中学校で大きく増加しています。今後は、H29年度に作成した教職員の育成指標に基づき、経験年数に応じた資質能力の育成など、系統的計画的な支援を行っていくことが求められます。部活動顧問の負担軽減を目指した部活動サポート事業において、「負担軽減の効果があった」と答えた学校の割合は減少しており、外部指導者単独での引率や指導を可能とするなどの新たな支援が求められています。また、教職員のワークライフバランスの実現を目指した取組として、全ての中学校で部活動の休養日を設定するとともに、全ての学校で教職員の定時退校日を設定しました。評価指標の「子どもと向き合う時間が充足している」と答えた教職員の割合は少しずつ増加してきており、今後も、現場の教職員の意見を聞きながら、教職員の働き方改革を進めていく必要があります。

安全・安心で快適な教育環境の整備では、H29年度で学校施設の耐震化が完了し、評価指標の「学校園は安全などに配慮して施設・設備を整えている」と答えた保護者の割合は大きく増加し90%を超えるなど、保護者の安全・安心に関する満足度は高まってきています。今後は、普通教室への空調設備の導入が課題となっています。その他の学校園の教育環境の整備では、新規事業として、同学年の児童との学び合いの場が少ない小規模校に、他校とのコミュニケーションを可能とするICT機器を導入するなどの教育環境の整備を行いました。「他校の児童との交流によって、いろいろな見方や考え方ができるようになった」と答えた児童の割合は83.9%となっています(p.20参照)。さらに多くの児童がいろいろな見方や考え方ができるよう、ICT機器を活用した教育活動を支援していく必要があります。

## 施策5-1 教職員の資質能力の向上と支援体制の充実

### ◎主な事業

#### ○特色ある岡山市教職員採用試験実施事業(教職)

採用試験の実施や採用試験の広報活動、採用前研修の実施など

◆岡山市公立学校教員採用試験候補者選考試験受験者数 698人(H28) ↘ 682人(H29)

#### ○学校園における人権教育の充実(指導、保幼)

学校園で行う人権教育研修の開催への支援など

#### ○教職員研修事業(センター、保幼)

教職員のキャリアステージに合わせて、採用時から一貫した研修の実施

◆研修のねらい達成のために、研修が役立ったと答えた受講者の数 78.5%(H28) → 78.7%(H29)

#### ○マネジメント力向上研修(センター)

管理職、中堅教職員だけでなく若手教職員についてもマネジメント力の育成を図る研修を実施

◆マネジメント力向上に関する研修のねらい達成のために、研修が役立ったと答えた受講者の割合 76.6%(H28) ↗ 84.1%(H29)



※ 各事業の指標(◆)については、主要なもの(施策内容とのつながりがわかりやすいもの)を中心に掲載しています。そして、H28からH29の変化を、0.5ポイント以上の増加がある場合は「↗」で、0.5ポイント以上の減少がある場合は「↘」で、それ以外を「→」で表しています。

#### ○若手教職員の育成事業(センター)

採用前から一貫した若手教職員研修の仕組みづくりなど

◆3年目研修修了時に実施する自己マネジメントシートの評価項目において学習指導の総合評価が研修により向上したと回答した受講者の割合 90.9%(H28) ↗ 95.6%(H29)

#### ○教職員の力量を高める教育研究事業

(センター)

OJTに役立つ校内研修資料の開発など

◆研究成果物を利用した学校の割合 76.4%(H28) ↗ 84.2%(H29)

#### ○学校問題解決サポート事業(指導)

学校からの解決困難な相談への助言・支援、及び対応力向上のための研修など

#### ○学校業務アシスト事業(教職)

教職員の業務(事務処理等)の一部を行うアシスト職員を配置

◆「子どもと向き合う時間の確保につながった」と回答した教員の割合 77.3%(H28) ↗ 82.6%(H29)

#### ○部活動サポート事業(保体)

部活動顧問の負担を軽減し、部活動を活性化するために外部指導者を派遣

◆「負担軽減の効果があった」と答えた学校の割合 88.0%(H28) → 87.6%(H29)

## 施策5-2 安全・安心で快適な教育環境の整備

### ◎主な事業

#### ○学校図書館の充実(指導)

学校図書館における計画的な図書の実備

#### ○ICT環境整備事業(就学)

教育ネットワークの安全性の向上のための教育ネットワーク最適化事業の実施と資産管理システムの導入

#### ○学校園耐震改修整備事業(施設、保幼)

学校園の校舎の耐震化を推進

◆学校施設の耐震化率 93.1%(H28) ↗ 100%(H29)

#### ○校舎等増改築事業(施設)

児童急増による教室不足を解消するための校舎増築工事の実施

#### ○【新規】小規模校におけるICTを活用した学校づくり事業(就学、指導)

小規模校の学びの質の維持向上のためのICT機器の導入と活用

◆「他校の児童との交流によって、いろいろな見方や考え方ができるようになった」と答えた児童の割合 【新設】83.9%(H29)



#### ○【新規】学校空調設備整備事業(施設)

学校における教室内の環境改善のため、空調設備の早期導入に向けて外部有識者を交えての検討会議を実施

## 政策6 家庭、地域社会の教育環境の充実

- 家庭の教育力の向上を目指し、子育ての孤立を防ぐとともに、家庭が責任を持って子どもたちとかわかることができるように、学校園や行政がその取組を支援します。
- 地域社会の教育環境の充実を目指し、子育て環境や生涯学習環境整備を整えるとともに、地域社会が責任を持って子どもたちに関わることができるように、学校園や行政がその取組を支援します。

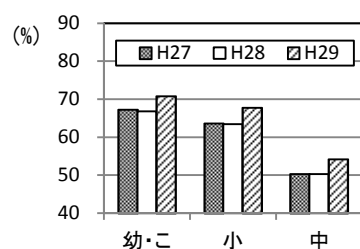
### 評価指標

※ &lt; &gt;は全国平均値

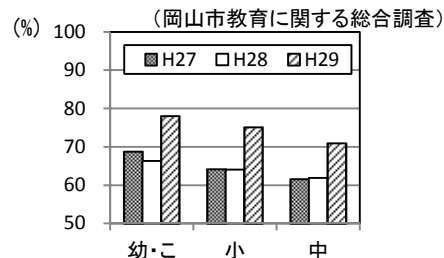
指標名	基準値(H28)	実績値(H29)	目標値(H32)
「年齢に応じた役割を子どもに与えている」と答えた保護者の割合	71.9%	75.3%	73% 以上
「平日に1日当たり2時間以上テレビゲームをしている」と答えた子どもの割合	小6 30.3% 中3 38.8%	小6 30.6% <31.1%> 中3 40.8% <37.6%>	小6 25% 以下 中3 35%
市立図書館の市民一人当たりの年間貸出冊数	6.3冊 (H27)	6.2冊 (H28)	6.4冊 (H31) 以上
公民館主催講座・クラブ講座における利用のべ人数	815,750人 (H27)	823,498人 (H28)	816,000人 (H31) 以上
全38中学校区のうち、地域協働学校に指定した中学校区数	31中学校区	31中学校区	35中学校区 以上

### 参考データ

① 「家族で地域行事に参加している」と答えた保護者の割合 (岡山市教育に関する総合調査)



② 「地域の大人は、子どもたちの手本となるようにルールを守っている」と答えた保護者の割合 (岡山市教育に関する総合調査)



### 成果と課題

家庭の教育力向上への支援では、評価指標の「年齢に応じた役割を子どもに与えている」と答えた保護者の割合や、参考データ①の「家族で地域行事に参加している」と答えた保護者の割合はいずれも増加しています。しかし、評価指標の「平日に1日当たり2時間以上テレビゲームをしている」と答えた子どもの割合は小中学校ともに増加しており、改善が必要となっています。テレビゲームの時間など家庭での過ごし方については、政策1の家庭学習への取組とも連携して、改善を図っていく必要があります。

地域社会の教育環境の充実では、参考データ②の「地域の大人は、子どもたちの手本となるようにルールを守っている」と答えた保護者の割合は大きく増加し、子どもたちを見守る地域の大人の意識は高まっています。また、地域社会の環境整備の面では、操山公民館を建設し、全ての中学校区に公民館の整備が完了しました。評価指標の「公民館主催講座・クラブ講座における利用のべ人数」は大きく増加しています。また、図書館での連携中枢都市圏の相互利用を進めていますが、評価指標の「市立図書館の市民一人当たりの年間貸出冊数」は減少しています。引き続き、インターネット予約図書を受取・返却窓口の増加など、生涯学習環境の整備を進めていく必要があります。

家庭、学校園、地域社会の協働体制の確立では、市民協働の人づくりを推進するために広報活動を充実させました。教育委員会広報紙をはじめ、市の広報紙や、新聞、SNSなど、様々な広報を行ってきました。さらに、大型商業施設で開催した「おかやまっこ未来フェスタ」などを通して、学校や子どもたちの取組について、市民への周知を図りました。



## 施策6-1 家庭の教育力向上への支援

### ◎主な事業

#### ○OPTAにおける人権教育の充実(指導、保幼)

PTAを対象とした人権教育研修の開催や、各単位PTAで開催する人権教育研修の講師謝礼金補助など

◆人権教育室主催研修受講者アンケートでの肯定的回答の割合 96.6%(H28) ↗ 98.5%(H29)

#### ○スクールランチセミナーの充実(保体)

中学校区や学校単位で実施する、児童生徒と保護者を対象にした調理実習・食育指導への支援

◆「セミナーで学んだことを自らの食生活に生かしたい」と回答した参加者の割合 【新設】92.8%(H29)

#### ○家庭教育支援事業(生涯)

リーフレット配布や家庭教育アドバイザーの派遣

◆家庭教育支援アドバイザー派遣回数  
14回(H28) ↗ 20回(H29)  
◆家庭教育支援アドバイザーによる研修会等の参加者の満足度 95.4%(H28) ↗ 97.5%(H29)



※ 各事業の指標(◆)については、主要なもの(施策内容とのつながりがわかりやすいもの)を中心に掲載しています。そして、H28からH29の変化を、0.5ポイント以上の増加がある場合は「↗」で、0.5ポイント以上の減少がある場合は「↘」で、それ以外を「→」で表しています。

#### ○絵本の読み聞かせ事業(図書館)

図書館で赤ちゃんとその保護者を対象にした絵本の読み聞かせ体験を開催

◆行事の参加人数  
1,034人(H28) → 1,033人(H29)  
◆参加者の満足度  
【新設】96%(H29)



#### ○子育て支援「のびのび親子広場」事業

(保幼)

未就園児が認定こども園や幼稚園の保育活動に参加できる機会の提供など

◆地域の子育てを支援していく役割を果たしていると答えた園の割合  
55.4%(H28) ↘ 50.0%(H29)

## 施策6-2 地域社会の教育環境の充実

### ◎主な事業

#### ○インターネット予約図書の受取・返却窓口拡充事業(図書館)

3公民館を受取・返却窓口とするモデル事業

#### ○【新規】図書館相互利用(図書館)

自治体の枠を超えた連携中枢都市圏の図書館の相互利用環境の整備

◆連携中枢都市圏域住民一人当たりの貸出冊数  
【新設】6.0冊(H29)

#### ○公民館ESD活動推進事業(公民館)

公民館での地域住民のESD活動を支援

#### ○公民館講座の拡充(公民館)

公民館講座による市民への学習機会の提供

#### ○新成人の集い事業(地子)

新成人の実行委員会による成人式の企画・運営を支援

○子ども会リーダー・育成者研修事業

(地子)

子ども会の育成役員研修や球技指導者研修会、ジュニアリーダー研修会などを開催

○放課後子ども教室推進事業(地子)

放課後や学校休業日に学校施設等を利用し、子どもたちの体験活動や学習活動の機会となる教室開設の支援

◆実施小学校区数  
28小学校区(H28) → 26小学校区(H29)

○わくわく子どもまつり(地子)

各種団体による活動成果発表や子育ての情報発信、遊びの提供の場となるイベントを開催

◆子どもまつり参加団体数  
82(H28) ↗ 83(H29)

○操山地区公民館建設事業(生涯)

地区公民館が未整備の操山中学校区に公民館を整備



○図書館設備改修及び修繕(図書館)

駐車場やエレベーターなど老朽化した図書館設備等の改修・修繕

○公民館耐震改修整備事業(公民館)

緊急性の高い公民館の耐震改修工事を実施

◆耐震化完了館数 42館(H28) ↗ 45館(H29)

施策6-3 家庭、学校園、地域社会の協働体制の確立

◎主な事業

○地域協働学校の推進と学校評価の充実

(指導)

学校園の運営に保護者や地域住民が参画する地域協働学校の推進や学校園の教育活動の検証の支援

○地域コーディネーター事業(生涯)

学校園へのボランティアの導入と発掘を行う地域コーディネーターを配置

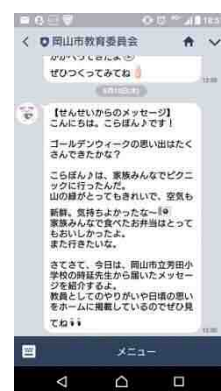
◆実施学校園の割合  
23.6%(H28) → 23.8%(H29)  
◆コーディネーターによって教育支援活動が充実したと感じている学校園の割合  
90.2%(H28) ↗ 93.4%(H29)

○広報広聴活動の充実事業(教企)

教育広報紙の発行やLINE@の活用などの広報活動と、教育に関する総合調査やこらぼミーティングなどの広聴活動を実施



教育広報紙



LINE@

## 5 外部評価委員の意見

### (1) 評価書

#### 熊谷 慎之輔 (岡山大学大学院教育学研究科教授)

岡山市が重点的に取り組んでいる「確かな学力の育成」については、全国学力・学習状況調査の結果が小学校・中学校ともに上昇傾向にあり、岡山市の継続的な取り組みが一定の成果をあげていると評価できるだろう。さらに、「学校内外の人材の活用により子どもの総合的な学力が伸びてきている」や「体験活動の充実が子どもたちの育ちにつながったり、子どもの総合的な学力が伸びてきたりしている」と感じると答えた保護者の割合も大きく増加しており、学校の取り組みに対する保護者の肯定的な意識をうかがい知ることができる。このように、保護者と学校の良い関係がみられるからこそ、授業と家庭学習との有機的なリンクを生み出す施策や事業を積極的に導入し、課題としてあげられた家庭学習の改善を図っていく必要がある。

子どもたちにとって、「学力」とならんで重要なのが「豊かな社会性」であろう。「豊かな社会性」とは、「よりよい社会をつくっていくために、さまざまな違いをもつ周囲の他者とのコミュニケーションを切り拓いていく力」と捉えられる(参考文献①)。OECDが標榜する主要能力(キーコンピテンシー)にも、「異質な集団で交流する力」が重視されている。このようにみると、学級の授業内外、さらには学級・学年の壁をこえて、子どもたち同士が密接にかかわりあい、学びあう活動を意図的・積極的に取り入れ、「確かな学力」の育成と同時に、「豊かな社会性」を育んでいくことが大切である。「学力」と「社会性」は、今日の学校教育において育むべき両輪であるため、岡山市においても、今後、「学力」だけでなく、「豊かな社会性」を育むために有効な施策や事業の開発が求められる。

「豊かな社会性」という点では、子どもたちにとって、「意味ある異質な他者」となる地域住民等とのかかわりあい、学びあいも欠かせない。岡山市においても、「家庭、学校園、地域社会の協働体制の確立」を施策として位置づけ、地域コーディネーター事業等に取り組んでおり、事業を通じた教育支援活動の充実がうかがわれる。ただし、新しい学習指導要領の理念として「社会に開かれた教育課程」が掲げられた今こそ、学校外の大人たちとのかかわりあい、学びあいをカリキュラムとして明確に位置づけ、教育支援活動から「地域学校協働活動」へと活動の質を高めていく必要があるだろう。

「異質な集団で交流する力」は、子どもたちだけでなく、教員においても必須となっている。これまでわが国の学校は、教員を中心にして組み立てられてきた。とくに、教員個人の努力と頑張りで支えられてきたため、「個の集合体」ともいわれてきた。こうした教員の努力と頑張り認めつつ、これからの学校を「個の集合体」から「多職種の協働による組織体」へと変えていくことが、「チームとしての学校の在り方と今後の改善方策について(答申)」の重要なポイントである。この答申では「多職種」と表現され、「他の職」ではなく、「多くの職」という漢字が用いられている点が注目される。すなわち、多くの職種が存在することをふまえて、それぞれの専門性をいかした「多職種協働」が、これからの学校の新しいマネジメントモデルの姿といえる。この「多職種協働」という概念で学校を組み立てるとなれば、学校にかかわる多様で異質な大人たちが、チームによる学びあいによって「多職種協働性」を高めていくことが求められる。岡山市では「地域協働学校(コミュニティ・スクール)」における「学校運営協議会」が、その場として重要な役割を果たすことが期待されるため、量的な拡大だけでなく、「学校運営協議会」における大人同士の学びあいを質的に高めていく支援も今後、重要になってくるだろう。

最後に、生涯学習の観点からみると、教育委員会の施策・事業が子どもや学校を中心としたものになりすぎているともいえる。教育委員会は、“学校”教育委員会ではないだろう。「人生100年時代」、「一億総活躍社会」、「リカレント教育」、「障害者の生涯学習」など、学校卒業後の学びに関連するキーワードがクローズアップされているなか、「選択と集中」という戦略を踏まえつつ、施策や事業のあり方(スコープとシーケンス、プライオリティ)をたえず検討してほしい。

#### 参考文献

①志水宏吉・高田一宏編『マインド・ザ・ギャップ!ー現代日本の学力格差とその克服ー』大阪大学出版会、2016年、p.231。

**藤原 恵子 (株式会社フジワラ テクノアート代表取締役社長)**

昨年度も述べたように、私は民間企業の経営に携わっているが、行政や教育に関してはまったくの素人なので、一市民の感覚で意見を述べさせていただく。今回は平成29年度の点検結果を読ませて頂いて私なりに思い至ったいくつかのポイントについて私見を述べさせて頂きたい。

岡山市教育委員会が「教育振興基本計画」を策定し、これを年度毎の具体的なアクションプランに展開し、成果目標（評価指標）に照らして点検・評価を行い、課題について次年度の計画に反映するという、教育行政事務のPDCAマネジメントサイクルの仕組みを確立してきたことは高く評価される。また、平成29年度のアクションプランや点検・評価報告書において、例えば、重要事項を「クローズアップ」として見開きページで年度成果の全体像の見える化を図るなどの改善が見られ、読者であり行政にとっての顧客である市民の理解を深める効果が期待できる。点検・評価の結果についても、「成果と課題」を各論の施策レベルでまとめるのではなく、より高位の政策レベルでまとめたことも、行政リソースの制約の中で全体としての優先度を検討する上で有益と判断される。

平成29年度については、「成果と課題」の総括のとおり、全体として取組の成果を挙げていると評価できる。政策1（学力の育成）では小中学校の学力が改善傾向にあることは好ましいが、一方で市民が望む水準には未だ程遠く更なる取組が必要であろう【ポイント1】。政策2（豊かな心の育成）では施策2-1への取組に苦勞されている様子が良く分かる。道徳教育は多くの子どもにとって決して面白くはないので何か楽しい活動の中で体験できると良い（アイデアはないが）。政策3（健康やかな体の育成）では日常的に運動しない子どもへの対応が必要であろう【ポイント2】。政策4（指導・支援）では一部改善がみられるものの問題行動等の防止と対策がさらに必要である。中学校の校内暴力は減少しているが全国平均より依然として高く、小学校より1桁多いので、根本原因を分析する必要があるようだ【ポイント3】。政策5（学校・園の教育環境の充実）では教職員の働き方改革を進められているのは結構なこと。給与等の処遇面での改善も必要ではないか。政策6（家庭・地域の教育環境の充実）では、今回の評価の対象外ではあるが、学校におけるいじめ問題は常に家族や市民の心配事である【ポイント4】。

以上述べた4つのポイントについての私の意見を述べる。

【ポイント1】学力についても「中2女子の運動時間」に見られる二極化の存在が推測される。ほとんど解答できない子どもの学力の底上げ、そのための基礎力アップの教育が偏差値向上の近道と考える。小学校の英語教育でも付いていけない子どもを作らないための対策の検討が必要である。

【ポイント2】体育やスポーツは体力勝負や競争の世界だが、不得意な子どもが半分はいるのが実情でないか。競争ではなく運動の楽しさや身体を動かすことの喜びを教えることはできないか（ストレッチ、エアロビクス、ダンスなど一人でも家庭で簡単できるもの）。

【ポイント3】中学生に多い問題行動については、原因が学校にあるのではなく、子どもたちを取り巻く社会環境にあると思われる。岡山は少年犯罪が非常に多く、中学生は学校外では高校生年代の少年と生活を共にしている。少年犯罪の減少に向けて、教育関係者だけではなく、行政を挙げて、警察や各種団体とも連携して、地域全体での取組を期待したい。安心して子育てができる岡山市を目指して頂きたい。

【ポイント4】全国的にいじめや校内暴力の問題が発生した時の事後処理に失敗する例が後を絶たない。岡山市では、必ず「重大事態」との前提で調査に当たることを徹底してほしい。また、犯罪に対しては警察の力を借りること。関係者の毅然とした態度と真摯な姿勢こそが最良の防止策になると思う。

## 住野 好久（中国学園大学・中国短期大学副学長）

事業の点検・評価の趣旨・目的は、取り組んできていることを振り返り、「きちんと実施していること」を明らかにすることではなく、「課題や取組の方向性を明らかに」（2ページ）することである。計画された事業をきちんとやりながら、それが市民の税金を使って取り組むべきことなのか、市民の期待とニーズに応えているものなのかを吟味することで、「取組の見直し・改善、重点化の検討」（2ページ）へと向かわなければならない。こうした点検・評価の趣旨・目的をふまえて、外部評価を行いたい。

### （1）「教育委員会の活動状況」について

自己評価においては教育委員会会議で「アクションプラン」の実現に向けてどのような議論がなされ、どのような提言等がなされているのかがわからない。市民の声を教育行政に反映させる役割を果たしているのか、県内外での視察や「こらぼミーティング」で収集された情報がどのように施策に反映されているのか等について自己評価し、教育委員会会議等の活性化に向けた改善の取組に着手することが必要である。

### （2）「政策1」について

第2期岡山市教育振興基本計画において筆頭政策となった「主体的な学びの推進による確かな学力の育成」に関しては、「偏差値や無解答率の対全国比が小中学校とも改善傾向」（11ページ）となっており、施策の効果が現れつつある。しかし、どの施策・事業がどのような成果をもたらしているのかわからないため、重点化すべき施策・事業、縮小すべき施策・事業の見極めができない。これに関しては昨年度の外部評価委員会でも「事業の評価指標を集めて、施策の評価をするようにすればよいのではないか」（35ページ）という意見が出され、「評価指標の設定について研究していきます」（37ページ）という方向性が示されているが、十分研究されていない。

### （3）「政策3」について

「健康教育の充実による健やかな体の育成」に関して、平均値としては運動習慣が定着されているように見えるが、分布を見ると二極化が見られるという分析は適切な指摘である。となると、この二極化を解消するための施策・事業の重点化が必要となるが、今年度取り組まれている「体育の宿題」は有効な事業なのか、その他の有効な取組があるのか分析・評価してほしい。

### （4）「政策4」について

「一人一人の育ちを支える指導・支援の充実」には多額の予算と人が投入されている。それらが効果をもたらしているのか評価が必要である。SCや支援員等を配置・派遣した学校においてどのような成果がもたらされているか、どのような人材の投入を重点化すべきか検討が必要である。

### （5）「政策5」について

教職員の資質能力の向上については「教育研究研修センター」の役割が重要であるが、自己評価にはセンターが施策・事業にどう参画し、どう成果を上げているのかわかりにくい。これは平成28年度においてもセンターの拡充が指摘されているが（35ページ）、センターの研修がどのように拡充され、受講した教職員の資質向上にどう貢献しているか、さらなる拡充に向けて教育委員会はどう取り組むべきか検討が必要である。また、教職員の資質能力の向上に向けた市内の大学との連携・協働についても言及がない。

以上、いくつかの政策について意見を述べさせていただいたが、全体として気になるのは、自己評価の中に具体的な改善策が十分示されていないことである。「・・・課題となっています」「・・・求められています」「・・・必要があります」といった叙述はあるが、「そのために、・・・」という具体的な改善方策が示されていない。また、政策に対する点検・評価なので、それを担っている教育委員会事務局の組織が有効に機能しているのかという点に対する点検・評価がないことも気になる。様々な部署が様々な施策・事業に取り組むことで1つの政策が構成されているため、政策レベルでリーダーシップを発揮する部署が不鮮明である。さらに、事務局の員数や職員の資質向上についても検討すべきではないか。

## (2) 外部評価委員意見交換会の概要

評価書でご示唆をいただいた改善のポイントをより明確にしていくために、外部評価委員の皆様方に教育委員会会議にご出席いただき、教育委員会と意見交換を行いました。

①日 時 平成30年7月10日(火) 13:00 ~ 14:00

②会 場 岡山市役所本庁舎教育委員室

③参加者 外部評価委員 熊谷 愼之輔 氏(岡山大学大学院教育学研究科 教授)  
藤原 恵子 氏(株式会社フジワラ テクノアート 代表取締役社長)  
住野 好久 氏(中国学園大学・中国短期大学 副学長)  
教育長 菅野 和良  
教育委員 塩田 澄子  
藤原 佳代子  
石井 希典



### ④主な意見

- ・ どういう取組をしているかではなくて、その取組でどのような成果が上がったかが重要。成果のエビデンスを集めている学校があるので参考にしたらよい。
- ・ ボランティアについては、参加者にインセンティブを与える仕組みを作る必要がある。
- ・ 運動が苦手な子どもには、体を動かすことの楽しさを教えるようにしてほしい。
- ・ 運動習慣の定着について、宿題を出してやらせるのではなく、楽しみながら自主的・計画的に運動に取り組む力をつけていくことが重要だ。
- ・ 家庭教育への支援に関しては、例えば3歳児検診などに、教育委員会が出向いて学びの機会を提供するといったアウトリーチが益々大切となってくる。
- ・ 岡山市地域協働学校(コミュニティ・スクール)について、保護者や地域の人、一般の先生たちをどうするのかということが大切で、各市の先駆的な事例を見てみると、目指す子ども像を中学校区で共有するようなワークショップを開き、共通理解するということをやっている。
- ・ 学校をよくしていくためには、地域もよくしていかなければならないので、スクール・コミュニティの発想も必要だ。
- ・ 他局との連携に関することについても自己評価の対象とし評価すべきだ。

## 6 点検・評価を踏まえた今後の方向性

H29年度の本点検・評価は、「第2期岡山市教育振興基本計画」の政策・施策体系に基づいて行う最初の評価となります。自己評価部分では、政策ごとに「岡山市教育に関する総合調査」や「全国学力・学習状況調査」の結果などの客観的なデータに基づいた評価を行い、成果と課題を明らかにしました。また、3名の外部評価委員からも評価をしていただきました。すでに、H30年度から新たに取り組んでいるものもありますが、これらの点検・評価を踏まえ、本市の教育行政の今後の方向性についての考え方を示します。

### ア 本市の教育行政について

#### ○「学力向上」と「問題行動等の防止及び解決」への取組

今後も、教育大綱で注目している「学力向上」と「問題行動等の防止及び解決」に重点的に取り組みます。「学力向上」については、授業改善を一層推進するとともに、全ての子どもの学力向上を目指します。特に、本市の課題となっている家庭学習については、参考となる事例を広めるなどして取組の充実を図ります。また、英語教育に関しては、モデル事業として実施していた民間検定を活用する取組を、H30年度には全中学校に拡充して実施しており、英語力の向上を目指します。

「問題行動等の防止及び解決」については、校内の支援体制づくりや教職員の対応力向上に取り組んでいきます。特に、H30年度から小学校へ教育支援アドバイザーを配置し、暴力行為やいじめ等の問題行動の未然防止に向けて、教職員と連携して生徒指導及び特別支援教育等の校内の支援体制づくりを支援しています。そして、支援や配慮を必要とする子どもたちをはじめ、全ての子どもたち一人一人の育ちを支えるきめ細かな支援の充実を図ります。また、いじめや問題行動については、早期発見・早期対応に努めており、重大事態発生時には、専門家を委員とする「問題行動等対策委員会」を中心として、関係機関等と連携して取り組んでいきます。

#### ○「運動習慣の定着化」への取組

運動習慣の定着化に向けて、体育の宿題や休み時間の遊びなどを通じて、子どもたちが興味や関心に応じて自主的に体を動かすようになる取組を進めていきます。特に、H30年度からは、推進モデル校による取組の実践及びその成果を市内各学校に普及し、全ての子どもたちが楽しみながら運動に取り組むことができるよう運動環境の充実を図っていきます。

#### ○「教職員の資質能力の向上と支援体制の充実」に向けた取組

教育研究研修センターでは、H29年度に岡山県や大学関係者と連携し、教員等の育成指標を作成しました。これにより、H30年度からの教職員研修がより効果的かつ系統的に実施できるようになりました。また、採用時に求める資質能力を明示することで、大学との連携をより一層強化していきます。

さらに、教職員のワークライフバランスの向上に向けて、引き続き、現場の教職員の意見を聞きながら、学校業務アシスト職員の効果的な活用や部活動の休養日の設定など教職員の業務改善に向けた支援の充実を図っていきます。

#### ○「協働体制の確立」に向けた取組

岡山市地域協働学校の取組については、学校の管理職とPTA役員、特定の地域関係者だけのものとなっているところも見られます。運営協議会や連絡会で行うワークショップを活用し、岡山市地域協働学

校の理念が多くの人に浸透するよう支援していきます。また、子どもたちの「豊かな社会性」を育むためには、子どもたちが学校外の大人たちと、かかわり合ったり学び合ったりすることが重要です。H30年度から、新たに地域が主体となる「地域学校協働活動」を推進する取組を始めており、活動の質を高めしていくことで、子どもたちのかかわり合いや学び合いを支援していきます。

## イ 本市の点検・評価システムの改善について

### ○「他局と連携した取組」の掲載

教育を取り巻く課題の中には、教育委員会だけでは解決できないものもたくさんあり、今まで以上に、他局と連携して課題を解決していくことが必要となっています。「オール岡山市」として連携して取り組んでいる事業についても、本報告書に掲載するようにします。

### ○「評価指標」の改善

昨年度には、子どもの成長等をより適切に評価できるように評価指標について研究し、事業の評価指標については、事業の有用感や満足度等の質的な結果の指標を基本とするように改善しました。また、各政策の評価では、政策の評価指標だけでなく、各事業の指標の実績値の変化に注目し、成果と課題をまとめるようにしました。しかし、どの施策・事業がどのような成果をもたらしているかが、まだわかりにくいため、今後も政策評価と各事業・施策評価について、わかりやすい形になるよう工夫を行います。

外部評価委員からのご意見をはじめ、今回の点検・評価で見えてきた成果と課題をもとに、市民の皆様の信頼に応える教育行政を推進していけるよう、「第2期岡山市教育振興基本計画」の確実な推進に努めてまいります。



